

九州病害虫研究会 第 102 回研究発表会 プログラム

2023 年 2 月 2 日 (木)

会場 菊南温泉ユウベルホテル

〒861-5517 熊本県熊本市北区鶴羽田 3 丁目 1 0-1

TEL:096-344-5600

発表会場および進行予定

講演 12 分 (1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分) 質疑 2 分 (終鈴 14 分)

	虫害会場 本館2階 光の間A	病害会場 本館2階 光の間B
午前の部		
9:30 開始	虫害部会 No. 1 ~10	病害部会 No. 1 ~10
昼休み		
※役員会 (本館2階 富士の間 12:30~13:30)		
総 会 (本館2階 光の間A 13:35~14:05)		
午後の部		
14:15 開始	虫害部会 No. 11 ~19	

九州病害虫研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

HP <http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>

【講演にあたっての注意事項・その他】

1. **講演ファイルは必ず CD-ROM または DVD に書き込んでお持ち下さい。USB メモリは使用できません**のでご注意ください。パソコンは、予め会場に設置したものを 사용합니다。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。
2. ファイル名は「**‘虫害’ または ‘病害’ + 講演番号 (半角 2 ケタ) + 発表者名**」として下さい。
例 1：虫害会場 1 番の発表の場合 虫害 01 村田.pptx
例 2：病害会場 25 番の発表の場合 病害 25 村田.ppt
3. **講演ファイルの受付は虫害・病害各会場**で行いますので、**午前・午後の開始前までに**ファイルの入った CD-ROM または DVD を各会場のスライド受付担当にお渡し下さい。公演中は受け付けませんので、時間厳守をお願いします。
4. スライド映写用 PC の OS は Windows10 で、PowerPoint 2016 をインストールしています。互換性の問題から図の配置や動画の再生環境が変更される可能性がありますので、講演ファイルをスライド映写用 PC へコピーした後、動作確認をお願いします。
5. 講演要旨は本会ホームページ内に掲載しておりますので印刷してご持参下さい。

【講演要旨の内容確認と再提出について】

第 102 回研究発表会の講演要旨は、九州病害虫研究会報第 69 巻に掲載されます。発表者は講演要旨の内容、誤字脱字等を再度確認して下さい。特に、下記の点について確認・修正をお願いします。規定等が守られていない場合には、演題のみの掲載とします。

講演要旨の訂正が必要となった場合には、研究会終了後に訂正した講演要旨を編集幹事に再提出して下さい。再提出は電子メール添付ファイルとし、締め切りを 2023 年 2 月 17 日(金)とします。

虫害会場

会場：菊南温泉ユウベルホテル（本館2階 光の間A）

講演12分（1鈴10分、2鈴12分）、質疑2分（終鈴14分）

<午前の部>

9:30～12:00 ※9:25 事務連絡

講演番号/ 開始時間	タイトル
1 9:30	大分県におけるシロイチモジヨトウの薬剤感受性について ○山元美祐・玉野井昭・山崎修一 (大分農林水研)
2 9:45	ツマジロクサヨトウの5種作物に対する寄主適合性 ○田中彩友美・水谷信夫・村田未果 (農研機構・植防研)
3 10:00	ツマジロクサヨトウを含むガ類へのブランコヤドリバエの寄生率の種間差異 ○横田春樹・村田真輝・野間将義・新谷喜紀 (南九州大環境園芸)
4 10:15	ツマジロクサヨトウ幼虫の在来天敵タバコアオムシチビアメバチに関する基礎的知見 ○村田真輝・小森崇聖・新谷喜紀・足達太郎 ¹⁾ (南九州大院・ ¹⁾ 東京農大国際食料)
5 10:30	飼料用トウモロコシで発生したツマジロクサヨトウに対する保全的生物的防除の有効性 ○池之上祐紀 ¹⁾ ・末永 博 ¹⁾ ・柿元一樹 ^{1,2)} ・大野和朗 ³⁾ ・中田昶瑠 ³⁾ ・安達鉄矢 ³⁾ (¹⁾ 鹿児島農総セ・ ²⁾ 現:(株)Field Styled Lab.・ ³⁾ 宮崎大農)
6 10:45	福岡県東部の水田における2022年のイネカメムシの発消長 ○清水信孝 (福岡農林試)
7 11:00	水稻育苗箱施用剤のトビイロウンカに対する効果に影響を及ぼす要因の検討 ○成富毅誌・井手洋一 (佐賀農業セ)
8 11:15	分類学的混乱を引き起こしたクロハラカマバチの生殖多型 ○三田敏治・辰巳嘉人 ¹⁾ (九大院農・ ¹⁾ 奈良農研セ)
9 11:30	近年報告された害虫種のヒメヨコバイと分類学的研究 ○上原友太郎・大原直通 ¹⁾ ・紙谷聡志 ¹⁾ (九大院生資環・ ¹⁾ 九大院農)
10 11:45	石垣島で採取したミカンコミバエ種群に対する誘殺板による防除効果の検討 ○楠本みさき ¹⁾ ・本間 淳 ¹⁾²⁾ ・原口 大 ¹⁾ (¹⁾ 沖縄防技セ・ ²⁾ 琉球産経)

----- 昼休み -----

役員会(本館2階 富士の間 12:30～13:30)

総会(本館2階 光の間A 13:35～14:05)

<午後の部>

14:15～ 16:30

講演番号/ 開始時間	タイトル
11 14:15	九州で誘殺されたミカンコミバエ種群のミトコンドリア DNA ハプロタイプ解析 ○本間 淳 ¹⁾²⁾³⁾ ・楠本みさき ¹⁾ ・原口 大 ¹⁾ (¹⁾ 沖縄防技セ・ ²⁾ 琉球産経・ ³⁾ 琉球大農)
12 14:30	大分県のシソにおけるアザミウマ類の発生実態と定植時防除薬剤の選定について ○伊東拓真・伊藤玲央・山崎修一 (大分農林水研)
13 14:45	スワルバンカー®ロングを活用したアスパラガスの総合的害虫管理技術体系の検討 ○吉村友加里・菅 康弘 (長崎農技セ)
14 15:00	2021年に宮崎県で初確認されたトマトキバガ個体群の発消長と薬剤感受性 ○竹原剛史・後藤 弘・椎葉駿輔 (宮崎総農試)
15 15:15	キオビエダシヤク幼虫の高温耐性 ○松下拓海・新谷喜紀 (南九州大環境園芸)
16 15:30	セスジハリバエの寄生前待機幼虫の生存に及ぼす温度の影響と寄生に適した寄主の齢期 ○野間将義・新谷喜紀 (南九州大環境園芸)
17 15:45	サシバエ (ハエ目: イエバエ科) の飛翔と牛の忌避行動の関係 ○藤岡龍生・松尾和典 ¹⁾ (九大共創・ ¹⁾ 九大院比文)
18 16:00	奄美群島のトルコギキョウ栽培で発生するチャノキイロアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果 ○倉本周代 (鹿児島農総セ大島)
19 16:15	バレイショにおけるドローン防除時の薬剤の残効 ○川本 旭 (長崎農技セ)

病害会場

会場：菊南温泉ユウベルホテル（本館2階 光の間B）

講演12分（1鈴10分、2鈴12分）、質疑2分（終鈴14分）

<午前の部>

9:30～12:00 ※9:25 事務連絡

講演番号/ 開始時間	タイトル
1 9:30	トマト黄化葉巻病耐病性品種「桃太郎ピース」におけるトマト退緑ウイルス（ToCV）の全身移行の経時的推移と初期病徴 ○上村香菜子・田中彩友美 ¹⁾ ・水谷信夫 ¹⁾ （福岡農林試・ ¹⁾ 農研機構植防研）
2 9:45	ムギ赤かび病によるDON汚染種子の簡易スクリーニング法 ○井手洋一・古田明子 （佐賀農業セ）
3 10:00	サンセバリア炭疽病菌(Cs)におけるCRISPR-Cas9システムを用いた単独交叉による遺伝子破壊/置換法の確立 ○大崎桃太郎・中村正幸・岩井 久 （鹿児島大農）
4 10:15	育苗期の施肥量の違いがイチゴ品種「佐賀i9号」の炭疽病(<i>Colletotrichum fructicola</i>)の発病に及ぼす影響 ○古田明子・西 美友紀 ¹⁾ ・井手洋一 （佐賀農業セ・ ¹⁾ 西松浦振興セ）
5 10:30	サツマイモ基腐病による塊根の潜在感染と貯蔵中の基腐病発生を防ぐための塊根の防除対策 ○西岡一也・西 八束 （鹿児島農総セ）
6 10:45	サツマイモ基腐病の発生地域における品種「こないしん」作付けによる発生程度軽減事例 ○尾川宜広・中西善裕・西岡一也・西 八束 （鹿児島農総セ）
7 11:00	鹿児島県におけるナシ黒星病菌のDMI剤に対する薬剤感受性 ○濱上修作・尾川宜広 （鹿児島農総セ）
8 11:15	タマネギべと病一次伝染に対するドローンを用いた濃厚少量散布の有効性 ○柳井瑞帆・菅 康弘 （長崎農技セ）
9 11:30	キウイフルーツに発生した <i>Phytophthora cinnamomi</i> による疫病（病原菌追加） ○池田亜紀・景山幸二 ¹⁾ ・近藤知弥・衛藤友紀・白石祥子 ²⁾ （佐賀果樹試・ ¹⁾ 岐阜大流域研セ・ ²⁾ 佐賀農技防セ）
10 11:45	無人航空機（ドローン）を活用した空中散布によるジャガイモ疫病に対する防除効果の検討 ○渡邊 亘・菅 康弘 ¹⁾ ・田代暢哉 ²⁾ ・中西善裕 ³⁾ ・川本 旭 （長崎農技セ中山間・ ¹⁾ 長崎農技セ・ ²⁾ PHC研・ ³⁾ 鹿児島農総セ）

----- 昼休み -----

役員会(本館2階 富士の間 12:30～13:30)
総会(本館2階 光の間A 13:35～14:05)